

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人平成会 グループホーム栄田
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市栄田町42番地58号
記入者名 (管理者)	管理者 立石 秀明
記入日	平成 19 年 11 月 5 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

( ■ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念は作成しているが、地域に対する理念の啓発活動は不十分である。	○	地域の方々と交流をする機会を増やし、広報紙等を発行して地域の方の理解を深めたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	勉強会等を通して、理念について検討し、共有している。その理念を踏まえながら生活支援できるよう取り組んでいる。	○	勉強会、ミーティングを活用し、理念についての理解を深め、日々の取り組みに活かして生きたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	ホーム内に理念を掲示し、家族には入居時に説明をしている。地域に対しては運営推進会議を通じて理念を理解してもらえるよう取り組んでいるが、十分に浸透しているとはいえない。	○	理念の掲示をさらに見やすいように工夫する。運営推進会議を活用し、地域の方が来訪しやすい環境を整え、交流をしながら理念を浸透させたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホームの行事に参加していただいたり、普段も声をかけ合ったりして顔なじみの関係になってきている。しかし、気軽に立ち寄ってもらえるまでのつきあいはできていない。	○	今後も行事に参加していただきたい。また、来訪しやすい環境を作りつつ、こちらからも積極的に声をかけていくようにしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、地域行事・活動に参加している。近くの学校の職場体験や実習を受け入れている。	○	今後も積極的に地域行事・活動等に参加していきたい。職場体験や実習後も交流が続くよう働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしについての支援は出来ていない。	○	地域との交流を増やし、その中から事業所が出来ることを見つけ、状況に応じた支援を行えるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価についての意義の説明を行い、理解を深めている。ただ、評価後の改善点を具体的に活かした取り組みには不十分さがある。	○	評価結果を全職員が把握し、改善すべき点はカンファレンスやミーティングを行い、評価を活用したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、評価への取り組みや評価結果報告を行った。そこでの意見を取り入れ、全職員がサービス向上につながるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に市町村担当者と行き来する機会が持っていない。関わりが希薄である。	○	運営推進会議を通じて、市町村との情報交換の機会を増やし、市町村との連携を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会が少なく、活用した支援となると不十分である。	○	研修会に参加したり、勉強会のテーマとして取り上げてみる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会がほとんど無いが、普段の支援で注意しながら防止に努めている。	○	勉強会のテーマとして取り上げ、さらに虐待防止の徹底に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書で十分な説明を行い、理解・納得していただけているようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見があれば、職員はその情報を共有し、不満や苦情については改善するよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時に個々に合わせた報告をしている。遠方の方など面会に来れない方には電話で伝えたり、手紙や写真を送付して報告をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、家族等から意見があれば職員は、その情報を共有する。不満や苦情は改善するよう努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>必要に応じて職員から意見を出してもらい、検討して反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じた勤務調整が出来ている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在は職員の異動等がなく、職員の変化が無い為、馴染みの関係が出来ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会を実施している。また、法人外のグループホーム連絡協議会の研修など外部の研修会にも参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修の時に交流する場面もあるが、その場だけになる事が多い。	○ このような研修会を活用し、相互訪問を行いながらサービス向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士で話し合いをすることもあるが、ストレスが軽減されているのかは不明な点がある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の得意とする業務や役割をもってもらい、意欲的に働けるようにしている。その中で、職員同士フォローし、向上心を持てるようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は本人にも来ていただく。本人や家族から話を伺い、入居されてからも話をよく聴く機会をもっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に困っていることを伺う。入居された後も話を伺い、不安なことなど解決できるよう支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としているサービスが利用できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設している小規模通所介護を利用して、徐々に馴染んでから入居された方もいる。職員も馴染んでもらえるよう家族と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りなど生活の中で教えていただくような場面作りを心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を家族にも伝え、支援のあり方を相談して共に支えあう関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係の理解に努め、各家族に合った支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、入居前に住んでいた所の知人などの面会がたまにある。また、葉書を書いて交流をしている方もいらっしゃり、その支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士で過ごしている場面もあるが、身体的・精神的状況に個人差がある為、介助を必要とする方に非難的などところがある。そういう場面でのフォローがまだ十分にできていない。	○	フォローが必要である場面の情報を共有し、対応を検討して未然に防ぎ、入居者が不快な思いをしないよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了し、継続的な関わりを必要とする方は、ほとんどいない。	○	今後、そのような状況があれば関係を断ち切らないような支援の工夫をしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を取り入れて活動や外出をしているが、全入居者の意向を把握しているとはいえない。	○	本人の意向、暮らしについて話をする時間を多く持つ。困難な場合は家族からも意向を伺い、一人ひとりの希望する暮らしにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話やセンター方式の中から、これまでの暮らしを把握している。職員が情報を共有し、支援に活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者のその日の状態や一人ひとりの出来ることを見極め、その人に合った過ごし方を把握して支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりに合った介護計画を作成し、家族に説明をしている。その中で本人や家族からの意見をいただき、介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化や対応できない変化が生じた場合、介護計画を見直し、状態に合った介護計画を作成する。家族への説明も行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や気づき等、個人の記録をしている。しかし、介護計画に十分活かしているとはいえない。	○	介護計画に基づいたケアについての情報を共有し、記録を行い、支援に反映させていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の中には、小規模通所介護利用者との交流を楽しみにし、一緒に過ごしておられる。しかし、多機能性を活かしての柔軟な支援をしているとまではいかない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練に参加していただいたり、職場体験や実習の受け入れを行い、地域の方々と関わる機会を設けている。	○	このような機会を増やし、更に地域との距離が近くなるよう工夫していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域内の他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いは、ほとんど出来ていない。	○	本人の意向や状況に応じてケアマネジャーや事業者と相談し、他のサービスの活用を検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状として、地域包括支援センターと協働しているとはいえない。	○	地域包括支援センターに相談するなどして助言をいただき、支援に活かしながら協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が希望するかかりつけ医を受診し、事業所との関係も築いている。また、入居者に応じた必要な医療を受けている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者のかかりつけ医とは診断・治療などの相談ができていますが、認知症専門医の確保ができていない。しかし、かかりつけの病院や医師は認知症の理解をしていただき、対応していただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持つ職員と相談しながら健康管理を行っている。状況に応じて指示をもらい、適切に対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は主治医等と情報交換を行っている。退院時も主治医やソーシャルワーカーとの情報交換や相談により、対応している。可能な限り早期退院してもらえよう、行ってもらっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	あらかじめ重度化した場合のあり方を家族に説明しているが、状態によって、その都度家族と相談している。しかし、終末期についての話し合いは出来ていない。	○	終末期のあり方について、本人や家族、かかりつけ医と話し合いをもつ機会を設けたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、かかりつけ医からの情報や助言を元に職員間で今後の対応を検討している。終末期については職員間での話し合いも十分にできていない。	○	職員間で、重度化・終末期の理解を深め、今後の変化に備えたチームでの支援ができるよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居される時に、馴染みの物や好みの物を持ってきていただき、変化が少なくなるように工夫している。また、家族から情報をもらったり、必要に応じて家族に協力していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人にあった声かけ、対応をしている。個人情報については、プライバシーを損ねることがないように徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を表せるよう働きかけている。できるだけ、その人に行ってもらい、状況にあわせて必要最低限の支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで、その日の心身の状態にあわせて、一日の過ごし方を決めていただいて希望に沿うよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみができている。美容に関しては、訪問美容を利用している入居者が多く、希望する店に行く人は少なく、全員が望むおしゃれの支援ができているとはいえない。	○ 近隣の美容室を利用したり、本人の望む店に外出していききたい。必要に応じて家族にも協力していただき、本人の望みを実現していききたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に入居者の希望を取り入れている。入居者の状態に応じて野菜を切る等の調理や片づけを一緒に行っている。食事は、入居者の状態に応じて食べやすいように常に気を配って工夫している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一部の入居者は嗜好品を購入し、日常的に楽しめているが、全員が楽しむことができるような支援ができているとはいえない。	○ 入居者全員が希望する嗜好品を日常的に楽しめるよう話を聞き、提供できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりにあった下着・おむつを選んでいる。必要に応じてトイレ誘導し、排泄チェック表をつけているが、チェック忘れが見られることがあり不十分な面がある。状況をみながら職員間で検討し、おむつ使用を減らしていくように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯を決めて行っている。一日おきの提供を基本とし、希望されていない時は、翌日にするなど、本人のタイミングや希望に合わせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間に活動(レクリエーション等)を行い、夜間は安眠できるように視点している。室温の調整を行い、快適な環境を提供している。休息については、一人ひとりが好みの場所で休まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や力を活かして家事手伝いをしていただいている。一人ひとりにあった楽しみごとや気晴らしになるもの(新聞、雑誌、パズル等)を提供し、生活の一部として支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持っている方は買物時に支払いをしてもらおう。職員は、後で本人も確認出来るように記録を残し、領収証を預かっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望も取り入れ、少人数で外出できるよう支援している。しかし、外出を好まれない方に対する支援が十分でなく、日常的には実施できていない。	○	本人の心身の状態や気候を見て、散歩から始めていき、外出する機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出は、行事(花見や日帰り旅行等)の時になっっていることが多く、十分に出来ていない。	○	入居者や家族と話をし、できる限り要望を取り入れた支援が出来るよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は取りつぐなど必要に応じた支援を行っている。 手紙は書いたものを職員の所に持ってこられ、職員が出したり、一緒に外出して手紙を出していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問できる時間は決めてあるが、時間外に来られた時も対応している。 状況に応じて、リビング、和室、居室で、ゆっくりと過ごしてもらえるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが言葉による制限など、まだ改善していかないところがある。	○	言葉による制限は危険会費の為にやってしまっているのでは、声かけの工夫や付き添って行えるよう工夫をしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はない。玄関は、自動ドアでセンサーがあるが、職員の見守りを十分に行い、連携を密にすることで入居者のひとりでの外出を未然に防いでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の連携により、リビングにいる方も居室にいる方についても所在確認ができており、安全の確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、危険性を考慮した保管場所を設定している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が連携し、あらゆる事故も防止に努めている。 事故等があった場合、必ず事故報告書を作成し、回覧して共有する。 そこから改善すべき点を職員で検討し、対応の工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを掲示し、対応できるようにしているが熟知にはまだ至っていない。応急手当などの訓練も定期的に行えていない。	○	勉強会を行い、訓練を行う機会をつくり、全職員が対応できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施しているが、避難方法は全職員が確実に身につけたとはいえないところがある。災害時の地域の人々の協力依頼をおこなっているが、不十分な面がある。	○	避難訓練を実施する時に、地域の方々にも参加していただけるよう働きかけたい。その中で意見をいただき、改善すべき点があれば検討し、災害時の対応を身につけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化がみられた時、その状態やリスクについて家族に説明して話し合いの上で、対応策を決めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化がみられたら、すぐに受診し、様子観察を徹底している。その時の気づきや受診後の報告を確実に言い、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の資格を有する職員を中心に、服薬管理を行っている。服薬の情報は全職員が共有し、変更あれば確実に申し送りを行っている。入居者が服薬する時は、必ず最後まで見守りをするよう徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通の確認を行い、レクリエーションなどの運動を取り入れている。便秘がちな方に対しては、主治医と相談したり、飲食物の工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアはできていないが、朝・夕食後は適切にできている。自立で歯磨きをされる方の口腔内の状態確認が十分にできていない。	○	昼食後も口腔ケアや自立でされる方の口腔内の確認も行い、口腔ケアを徹底させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量や一部の方の水分摂取量は把握できているが、綿密なカロリー計算は実施しておらず、全員の水分摂取量の把握は出来ていない。	○	食事・栄養についても勉強会を行い、栄養の部分にも配慮していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては、かかりつけの医療機関を受診した際に予防接種を受けてもらっている。 感染予防として、手洗い、うがい、手の消毒を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なもの、安全なものを使用し、食材にあった管理をしている。 食中毒予防に、まな板、包丁を使い分けている。また、消毒は材質に合わせて台所用ハイターや熱湯、日光での消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先は、手すりやスロープがある。また、手作りの看板あったり、花を植えており、親しみやすいような工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節の花や壁飾りを飾っており、季節感が感じられるような工夫をしている。 リビングや和室はデイ利用者も一緒に過ごすことになり、全員が居心地よく過ごせていない時もある。	○	その日の人数や状況に応じて、リビングや和室を上手に活用し、入居者にあった居心地のよい場所を提供していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やリビング内のソファにて、話をしたり、活動をしたりと自由に過ごしてもらっている。しかし、デイの利用人数が多い時など、共用空間において一人になる居場所の確保が難しいことがある。	○	リビング内のソファを4箇所に分けているので、ソファも活用し、その時の状況にあわせて一人になる空間や仲間との空間を提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や生活用品、好みの物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ロスナイ、換気扇等を活用し、定期的な換気も行っている。冷暖房は各居室で調整できない為、職員が居室を巡回し、入居者の状況や好みに合わせた室温を保つようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを廊下、浴室、トイレ等に完備している。必要に応じて手すりを使用するなど、身体機能を活かしながら生活できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力に合わせて支援している。活動時、その人に合ったものを行うようにしたり、職員と一緒にいき、混乱や失敗がないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	一階にはウッドデッキがあり、日光浴をすることもある。また、畑もあり、園芸が楽しめるようにしている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者や職員が馴染みの関係となり、職員側からの支援だけでなく、入居者の方から教えていただく場面を作っている。共に支えあい、信頼関係を築いている。また、家族からの意見や要望も取り入れたり、入居者の変化があった時などの報告、相談を行ない、家族との信頼関係も築けるように取り組んでいる。
- ・入居者の心身状態の細かな変化に気づき、かかりつけ医とも相談しながら職員間でも検討し、その方に適した支援をしている。
- ・生活の中で季節感を感じられる工夫（季節に合った壁飾りを入居者と一緒に作成する、花を生ける、献立の工夫）をし、生活の中に変化をもたせるよう取り組んでいる。
- ・ホーム独自で勉強会をしたり、外部での研修にも積極的に参加して、知識や技術の向上に努めている。